Text Mining of Narratives by Aromantic/Asexual People: Differences by Romantic Orientation and Sexual Orientation
2023 Vol.25 p.9 - p.20

アロマンティック／アセクシュアルの人々による語りのテキストマイニング

－恋愛的指向と性的指向による違い－

此下　千晶　お茶の水女子大学大学院　人間文化創成科学研究科
石丸　径一郎　お茶の水女子大学基幹研究院

要約

近年，性的マイノリティに対する社会的関心が高まっているが，他者に恋愛的に惹かれないアロマンティック（Aromantic），他者に性的に惹かれないアセクシュアル（Asexual）の認知度は未だに低く，日本における実証研究は極めて乏しい。本研究は日本でアロマンティックまたはアセクシュアルを自認している人々の語りの可視化を目的として，参加者 14 名に約 50～90 分の半構造化面接を実施し，質的データ分析ソフト NVivo12 を用いてトランスクリプトのテキストマイニングを行った。頻出語分析の結果，アロマンティックの人々は社会における恋愛至上主義的な規範によって，アセクシュアルの人々は強制的性愛の規範によって葛藤を経験していることが示唆された。ロマンティック・アセクシュアルとアロマンティック・セクシュアルの人々は，恋愛的または性的に惹かれる相手との関係性において，恋愛と性愛が結びつかないことによる葛藤を抱くという点が特徴であり，社会におけるロマンティック・ラブ・イデオロギーに疑問を抱く傾向が示された。アロマンティック・アセクシュアルの人々は，恋愛・性愛を軸としたパートナーシップに価値が置かれている社会の中で，自らの指向を尊重する姿勢と孤独に対する不安の間で葛藤する場合があり，恋愛的・性的な要素が介在しないパートナー像を模索する傾向も示された。

キー・ワード：アロマンティック，アセクシュアル，恋愛的指向，性的指向，テキストマイニング

I　はじめに

1. アセクシュアルとは

2022 年 12 月 13 日，バイデン米大統領が同性婚の権利を保障する法案に署名し，同法が成立した。2022 年 11 月 1 日，日本では「東京都パートナーシップ宣誓制度」の運用が始まった。このように，近年は「誰もが愛する人を愛する権利がある」ことを尊重する国際的動向がある。これはとても意義深いことであるが，この動向において不可視化されやすい性的指向がある。それは，他者に性的に惹かれない「アセクシュアル（Asexual）」である。

世界最大のアセクシュアルコミュニティ「Asexual Visibility and Education Network（AVEN）」のウェブサイトによると，アセクシュアルは「a person who does not experience sexual attraction（性的惹かれを経験しない人）」と定義づけられている。アセクシュアルは性的マイノリティの総称である「LGBTQ＋」の１つとされているが，世界的に認知度が低いこと

や，アセクシュアルを歓迎しないコミュニティが多いという報告があるなど（Dawson et al., 2018），LGBTQ＋の中でもさらにマイノリティの立場にあるという指摘がなされている。

2. アセクシュアル研究の動向

アセクシュアルは Kinsey et al.（1948）の‘Sexual Behavior in the Human Male’（ヒト男性の性行動）以来，研究において散見されるようになった。アセクシュアルに対する国際的な注目を集めた論文としては，Bogaert（2004）の Asexuality: Prevalence and Associated Factors in a National Probability Sample（アセクシュアリティ：全国確率標本における存在率と関連要因）がある。この論文はイギリスの人口統計データを用いて「誰に対しても性的魅力を感じたことがない」人をアセクシュアルと見なした上で，それらの人々が回答者の約 1.1%存在したことを示した。

この 2004 年の報告を皮切りにアセクシュアル研究は発展していったが，日本の研究は歴史が浅く，ほとんどが 2010 年代以降に公刊されている。近年は，Aro/Ace 調査実行委員会がウェブ調査「アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラム調査 2020」を実施し（三宅・平森，2021），埼玉県（埼玉県，2021）や大阪市（釜野他，2019）が無作為抽出調査における性的指向の設問にアセクシュアルを選択肢として含めるなど（Hiramori & Kamano, 2020a ; Hiramori & Kamano 2020b），人口学研究において発展の兆しがある。その他，社会学や教育学の分野においても研究が見受けられるが，その数は少ない。臨床心理学研究に関しては，抑うつ，不安，自殺傾向等の指標において，アセクシュアルの人々の得点は異性愛者よりも高い可能性がカナダの研究にて示されている（Yule et al.，2013）。この結果から，アセクシュアルの人々が生きづらさを抱えていることが示唆されるが，日本における当事者の実態を明らかにした実証研究は極めて乏しいのが現状である。

3. アセクシュアルの周辺カテゴリー

アセクシュアルに関連する概念として「アロマンティック（Aromantic）」がある。アロマンティックは恋愛的指向の 1 つとされており，AVEN のウェブサイトによると，「他者に恋愛的に惹かれない，または恋愛的関係を望まない」ことを意味する。

アセクシュアルのコミュニティでは，恋愛的指向と性的指向を分けて捉える「スプリット・アトラクション・モデル」がしばしば重視されており，アロマンティックかつアセクシュアルの人は「アロマンティック・アセクシュアル」，他者に性的に惹かれるアロマンティックの人は「アロマンティック・セクシュアル」，他者に恋愛的に惹かれるアセクシュアルの人は「ロマンティック・アセクシュアル」と呼ばれる傾向がある。

国際的に見てアロマンティックの研究はアセクシュアルよりも少ない。また，上記に示したような恋愛的指向と性的指向の組み合わせに注目した研究はほとんど見受けられない。アセクシュアルのコミュニティでスプリット・アトラクション・モデルが用いられていることを考慮すると，性的指向だけでなく恋愛的指向に関する研究の発展も望まれる。

4. 本研究の目的・意義

本研究は，日本において「アロマンティック・アセクシュアル」または「アロマンティック・セクシュアル」または「ロマンティック・アセクシュアル」を自認している人々の，自認前後の経験に関する語りをテキストマイニングによって可視化することを目的としている。

アロマンティック／アセクシュアルの人々の経験を明らかにすることで，当事者に対するマイクロアグレッション（自覚なき差別）の軽減に貢献し得るという点で意義があると考えられる。

Ⅱ　方法

本研究は，お茶の水女子大学人文社会科学研究の倫理審査委員会による承認を得た「日本におけるアロマンティック／アセクシュアルのアイデンティティ形成プロセス」(受付番号：2022-57)の調査データを用いて分析した[1)]。

1. 調査概要

2022年10月～11月にかけて，「アロマンティック・アセクシュアル」または「アロマンティック・セクシュアル」または「ロマンティック・アセクシュアル」の3カテゴリーのいずれかを自認している14名を対象に，1人あたり約50～90分の半構造化面接を実施した。面接では，自認前後の経験や感覚，将来像等について調査した。

2. 手続き

⑴「アロマンティック・アセクシュアル」または「アロマンティック・セクシュアル」または「ロマンティック・アセクシュアル」を自認している，⑵18歳以上，⑶日本語での対話が可能，⑷インタビュー参加に対して苦痛や不安がない，という基準を設けて，①当事者のオフラインミーティング（インターネット上ないしオンラインのコミュニティで知り合った人々が，実際に顔を合わせる会），②チャットツールslack を使ったお茶の水女子大学関係者限定のコミュニティ「Ochat」，③知人からの紹介にて参加者を募集した。初めは便宜的サンプリングを行い，そこでアロマンティック・セクシュアルとロマンティック・アセクシュアルのデータが不足していたため，その2つのカテゴリーのみを対象として追加のサンプリング（合目的サンプリング）を行った。

参加者募集の際は，研究の目的，方法，データ管理等について記載した文書を紙または電子媒体にて配布し，参加を希望した人から研究参加に対する同意とその他基本情報に関する回答をGoogle Formsにて収集した。

調査は基本的にオンライン会議アプリケーション「Zoom」を用いたが，参加者からの希望があった場合にのみ対面で実施した。調査実施時は，参加者を本名ではなく希望のニックネームで呼ぶこととした。また，Zoomの場合はカメラのオン／オフを参加者の選択制とした。また，参加者から同意を得た上で，Zoomのレコーディング機能，もしくはIC レコーダー（対面の場合）を用いてインタビュー内容の録音を行った。

3. 参加者

アロマンティック・アセクシュアル自認7名，アロマンティック・セクシュアル自認2名，ロマンティック・アセクシュアルを自認5名が参加した。参加者の基本情報をTable 1に示した。

「アロマンティック／アセクシュアルの自認」については，インタビューにて詳細に尋ねると参加者によって多様であり，明確な区分が難しい場合もあったが，事前にフォームにて収集した回答を基に区分することとした。

Table 1 参加者の基本情報

参加者	年齢	性自認	アロマンティック／アセクシュアルの自認
A	20代	Xジェンダー	アロマンティック・アセクシュアル
B	30代	女性	アロマンティック・アセクシュアル
C	20代	男性	アロマンティック・アセクシュアル
D	30代	女性	アロマンティック・アセクシュアル
E	20代	女性	アロマンティック・アセクシュアル
F	20代	女性	アロマンティック・アセクシュアル
G	10代	女性	アロマンティック・アセクシュアル
H	20代	女性	アロマンティック・セクシュアル
I	30代	女性	アロマンティック・セクシュアル
J	10代	女性	ロマンティック・アセクシュアル
K	20代	女性	ロマンティック・アセクシュアル
L	20代	女性	ロマンティック・アセクシュアル
M	10代	Xジェンダー，ノンバイナリー	ロマンティック・アセクシュアル
N	20代	女性	ロマンティック・アセクシュアル

4. 分析方法

1）トランスクリプトの生成

調査によって収集された録音データのトランスクリプトを作成した。その際，個人が特定され得る情報は全てアルファベットや記号に置き換えた。

2）各参加者のトランスクリプトの抽出

質的データ分析ソフト NVivo12 の「自動コーディング」機能を用いて発言者ごとにデータを抽出し，参加者と調査者のトランスクリプトを分けた。インタビューにおける導入部分と最後の感想共有の部分はこの時点で削除した。

3）頻出語の単語クラウド作成

各参加者の発言を抽出したトランスクリプトを NVivo12 の「頻出語クエリ」機能を用いて分析し，頻出 50 語の単語クラウドをアロマンティック・アセクシュアル，アロマンティック・セクシュアル，ロマンティック・アセクシュアルに分けて作成した。単語クラウドとは，トランスクリプトの中で頻出している語句を図示したものであり，出現回数が高い語句ほど大きく表示される。単語クラウド作成時は，語をグループ化する際の基準として「完全一致（例：“talk”）」，「活用形を含む（例：“talking”）」，「類義語を含む（例：“speak”）」等の選択肢があるが，「完全一致」は文法によって形が変化しただけの単語が頻出語に複数現れてしまう事態に繋がり，「類義語を含む」は参加者の多様な語りを一律に扱ってしまう事態に繋がると判断し，「活用形を含む」を選択した。

分析にあたり，潜在的に曖昧な意味を持つ単語をチェックし，重要でない，あるいは調査とは関係のない意味を持つ単語は削除した。また，アロマンティック・セクシュアルは 2 名分のデータから単語クラウドを作成したため，エピソードや例示において用いられた個別性が高い単語は削除した。

4）語の類似性によるクラスター分析

各参加者の発言を抽出したトランスクリプトを NVivo12 の「クラスター分析」機能を用いて分析し，語の類似性によって参加者をクラスター化した。類似性の測定基準としてはピアソンの相関係数を用いた。

Ⅲ　結果

1. 頻出語

アロマンティック・アセクシュアル，アロマンティック・セクシュアル，ロマンティック・アセクシュアルの参加者の語りにおける頻出 50 語の単語クラウドを Figure 1〜3 に示し，上位 25 語とそのカウント，重み付けパーセンテージ（%）を Table 2〜4 に示した。

3 カテゴリーの頻出上位 5 語は共通しており，「思う」「人」「自分」「私」「恋愛」であった。

Figure 1 アロマンティック・アセクシュアルの語りにおける頻出 50 語

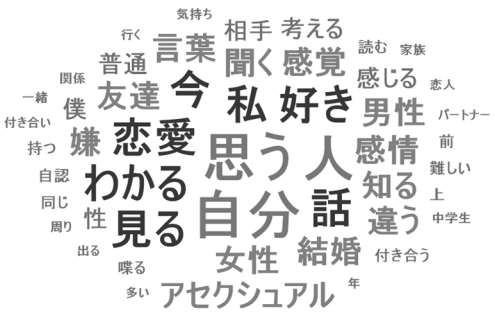


Figure 2 アロマンティック・セクシュアルの語りにおける頻出 50 語

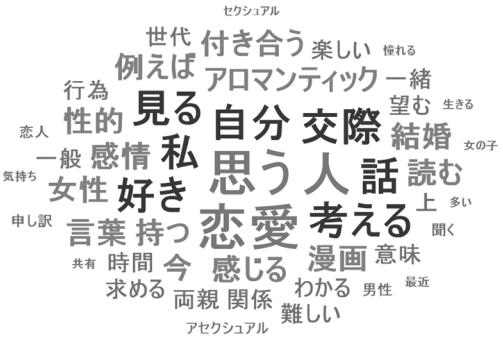


Table 2 アロマンティック・アセクシュアルの語りにおける頻出上位 25 語

語	カウント	重み付け パーセンテージ (%)
思う	346	5.18
人	231	3.46
自分	129	1.93
私	114	1.71
恋愛	87	1.30
好き	74	1.11
わかる	69	1.03
話	64	0.96
今	63	0.94
見る	54	0.81
感情	51	0.76
聞く	43	0.64
友達	39	0.58
知る	38	0.57
女性	35	0.52
感覚	34	0.51
男性	34	0.51
結婚	32	0.48
言葉	31	0.46
アセクシュアル	30	0.45
嫌	30	0.45
違う	30	0.45
感じる	29	0.43
性	28	0.42
相手	28	0.42

Table 3 アロマンティック・セクシュアルの語りにおける頻出上位 25 語

語	カウント	重み付け パーセンテージ (%)
思う	194	6.23
人	162	5.20
恋愛	92	2.95
自分	72	2.31
私	57	1.83
好き	46	1.48
交際	31	0.99
考える	30	0.96
見る	28	0.90
話	28	0.90
感情	25	0.80
持つ	24	0.77
アロマンティック	21	0.67
感じる	21	0.67
漫画	20	0.64
今	19	0.61
付き合う	18	0.58
女性	18	0.58
例えば	17	0.55
性的	16	0.51
結婚	16	0.51
言葉	16	0.51
読む	16	0.51
時間	15	0.48
関係	15	0.48

Figure 3 ロマンティック・アセクシュアルの語りにおける頻出 50 語

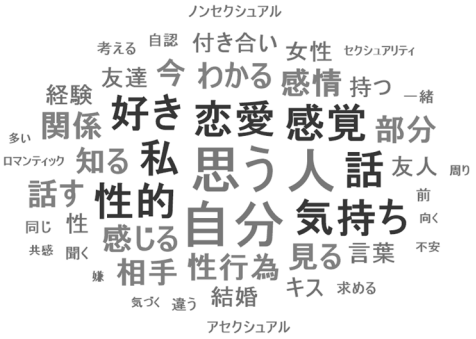


Table 4 ロマンティック・アセクシュアルの語りにおける頻出上位 25 語

語	カウント	重み付け パーセンテージ (%)
思う	211	4.45
人	130	2.74
自分	123	2.60
恋愛	102	2.15
私	73	1.54
性的	54	1.14
感覚	54	1.14
気持ち	53	1.12
好き	47	0.99
話	46	0.97
わかる	45	0.95
知る	41	0.87
性行為	40	0.84
感じる	39	0.82
感情	38	0.80
見る	38	0.80
今	36	0.76
関係	35	0.74
相手	34	0.72
話す	33	0.70
部分	33	0.70
友人	32	0.68
付き合い	28	0.59
友達	28	0.59
性	27	0.57

頻出上位 25 語の中で，アロマンティック・アセクシュアルにおいてのみ見受けられた語は「嫌」「違う」であった。

「嫌」は，自らの指向によって生じるネガティブな感情・感覚を説明する際に用いられる傾向があった。代表的なトランスクリプトは以下の通りである。

*（恋愛的でも性的でも）自分に矢印が向くのは**嫌**かなと思います。（中略）何か返せなくてつらいっていう。(A)*

*自分が愛した漫画とかアニメとか，もう恋愛が，恋愛っていうのはもう素晴らしいものなんだっていうふうな価値観でした。（中略）以前お付き合いしていた方とかは，どうやら私に恋愛感情を向けてるらしいっていうのは態度でわかるわけですけど一緒にいると，それに対してすらも私は嫉妬しましたからね。「私に対して恋愛をしているのか羨ましい，その感覚を私にも分けてくれよ」っていう感じでしたね。それで**嫌**いになっちゃうっていうのもありましたね，もう羨ましすぎて嫉妬しすぎて，イラッとして，(D)*

*触れられることにすごいもうなんか**嫌**悪感ていうんですかね。(B)*

*男性と身体的な接触があるのは個人的にはちょっと**嫌**悪感があるので，(F)*

*（親から）彼氏作りなさいとか，いないの？とか，恋話は？とか言われるんですけど，なんかそれを聞かれるってことはやっぱり結婚してほしいんだろうなとか思うと，なんだろう，言ったとしても**嫌**いになられるわけじゃないだろうけど，なんかそこら辺でがっかりさせるかもしれないなとは，（中略）やっぱり彼氏欲しいんだろうなって。親はいてくれた方がいいんだろうなって*

いうのを思うのでちょっと悲しくなって，けど，多分彼氏ができることはないから多分ずっと紹介しないんだろうなってい思いながら返答してます。（中略）

*（人から）言われるのが怖いことっていうのが何個かあって，「まだ初恋してないだけじゃないの？」みたいに言われるのがすごい**嫌**で，とか，なんか「え～もったいない」とか言われるのも**嫌**で，「した方がいいのに」とか勧められるのもわりと**嫌**。（G）*

「違う」は自分の自認に対する自問自答の過程を説明する際に言及される傾向があった。特に，異性に惹かれないから自分は同性愛者なのではないかと仮定する過程や，インターネット上で示されていた当事者の具体例に自分の経験を照らし合わせる過程が語られていた。代表的なトランスクリプトは以下の通りである。

*アセクシュアルって自認する過程の中で一瞬何でしょう，その性行為が男性としたくないんだったら，もしかして自分は女性とかの方が好きなのかなって一瞬思ったりはしたんですけど，でも別に**違う**なと思って，（中略）私は女性が好きだとかいうふうにはならなかったんで，基本自分はロマンティックのセクシュアルだと思ってたけど，そこが**違う**なあ，一瞬私レズビアンなのかな，でも絶対**違う**なって，それも自分でわかったので，そこでアセクシュアルかなっていうふうに，なんか知ったって感じです。（B）*

*最初はなんか男性に興味がないのかなってやっぱり思って。（中略）ヘテロじゃないんだったらバイだったりとかレズだったりとかっていう可能性は当然考えて，（中略）可能性としては考慮しつつでもやっぱり**違う**かなみたいな感じの認識だったかなと思います。（F）*

*そもそも LGBTQ に関しては興味があったので，そのことを調べていく間に（アロマンティックとアセクシュアルという言葉に）出会ったのかな，（中略）ちょっとほっとしたんですよね。やっぱりあるよねって思って。（中略）何かのサイトを見て，そこにこんな感じの人とかこんな感じの人みたいな，実際にその人たちが書き込みをしてて，そのどれともちょっとずつ**違う**なって思いながら，あーけどそのジャンルにいるんだなとは思いました。（G）*

また，頻出 50 語の単語クラウドを参照すると，アロマンティック・アセクシュアルにおいてのみ見受けられた語として「パートナー」がある。「パートナー」は，（恋愛や性愛が介在しない形での）理想のパートナー像，パートナーがいないことによって感じるプレッシャーや寂しさ等を説明する際に用いられる傾向があった。代表的なトランスクリプトは以下の通りである。

*今後の人生として所謂恋愛結婚とかは多分無理だなとは思ってるんですけど，単語として何だろう友情結婚っていうかわからないですけどいわゆる**パートナー**的な感じで，（中略）あくまで今のところですけど，自分の人生の今後の計画としてありかなと思ってるので，なんかアロマンティックだからといって 1 人で生きていかなきゃみたいなところは特になく，個人的にはそうですね**パートナー**とか子供とかいたらいいかなって（中略）まあ，その当然恋愛感情とか性欲とかは介在しない間柄になるとは思うんですけど，（F）*

*やっぱり同じセクシュアリティじゃないとうまくいかないと思ってるんで，できればアロマンティックアセクシュアルの**パートナー**がそれはいいと思いますね。もしセクシュアリティが違ったら相手が，相手か私がどちらかが我慢し*

ないと成り立たない関係になるじゃないですか。それは多分長続きしないので，（中略）

*やっぱりなんだかんだいってまだ結婚して出産して家族を作って家庭を持ってこそ，ごくごく普通の幸せだっていう価値観がいまだにあるんですけど，やっぱりなんかこう，いい年して独身の人はちょっとおかしいとか，いつまでも独身なのは不幸だ，かわいそうだっていう風潮があった，まあるいは独身でなくても，異性愛・同性愛に関わらず，**パートナー**がいないと自動的に勝手に，何も言っていないのに，かわいそうな人扱いになるっていう空気がまだまだあると思うから，そこが入れ替わってほしいですね。(D)*

*将来，**パートナー**とかいないと，なんか，いやー寂しいなとか，(B)*

アロマンティック・アセクシュアルの頻出上位 25 語にはなく，アロマンティック・セクシュアルとロマンティック・アセクシュアルの頻出上位 25 語には見受けられた語として，「関係」「交際」「付き合う／合い／合って」が挙げられる。これらの語は，性的または恋愛的に惹かれる相手との関係性に対する葛藤を説明する際に用いられていた。

アロマンティック・セクシュアルの場合，恋愛関係を志向しないことや，恋愛関係を結ばずに性行為をすることの難しさを説明する際にこれらの語が用いられていた。代表的なトランスクリプトは以下の通りである。

*この人に対する私の気持ちはやっぱり恋愛なのかどうかっていうのをやっぱりすごく考えまして，あんまりやはり**交際**したいとか，いわゆる恋愛**関係**になりたいというふうには思わなかったんですよね，(I)*

*きっといい人が出会え，来たら，自分にも何かそういう感情って湧いてくるんじゃないかーなと思ってた，（中略）告白されて人と**付き合う**ってことはあったんですよ（中略）やっぱ好意を寄せられた時に困る，困惑するっていうのってやっぱり自分がその気持ちを返せない，何か相手が求めてるものを返せないっていうところに対してすごく自分として負い目とかつらさというか申し訳なさを感じる。(H)*

*ちょっと現実的なことを考えると，（中略）やっぱり**交際関係**抜きに性的な行為をするとかっていうことはやっぱり難しいかなっていうふうにも思ったので。（中略）社会的に考えて，**交際**，**付き合って**るという状態を作ってからでないと，安全に性的な行為をするっていうのはなかなか難しいんじゃないかなと思って，(I)*

ロマンティック・アセクシュアルの場合，恋愛関係を志向するが，相手との性行為を望まない気持ち，性行為を求められることに対する疑問，それに付随して生じる相手との関係性における葛藤等を説明する際にこれらの語が用いられていた。代表的なトランスクリプトは以下の通りである。

*一人目にお**付き合い**してた方の時は，感じてた違和感だったのが，（二人目とお付き合いした時に）割と確信みたいな感じで，「あ，私，性的な関係に興味ないんだな」みたいな，(J)*

*なぜ恋愛**関係**にある相手と性行為をしたいと思うのか，みたいな疑問が生まれ，（中略）自分の中では好きな相手に性的欲求を向けるみたいなことに忌避感があるし，起こり得ないというか，（中略）そもそもないし，したくないっていう感じなので。(M)*

彼氏ができてってなった時に，（中略）向こうはそういうことがしたくて，まあ自分と付き合ってるし，（中略）本当にどうしたらいいかわか

*んないみたいな，**関係**性も悪くなってるし，みたいな感じで，結構まあ焦ってたというか，（中略）本人は言わなかったけど，何だろう，そういうふうに，「やらないなら，そんな人別れなよ」みたいな，（周囲から）言われることもあった。（中略）すごくそれを聞いて，なんだろう，辛い，辛いっていうか，（中略）もうなんかどうすればいいんだろうみたいな，（中略）でもそれを伝えることってめっちゃ酷だなって，（中略）うーん酷いことをしてるなって思ったりもして，（N）*

*恋愛したいっていう気持ちはもちろんまだあって，あるんですけど，（中略）大学生とかどんどん歳を重ねていくにつれてそのキス以上の行為を伴わない，本当にプラトニックなお**付き合い**って難しいんじゃないかなっていうふうに思うので，でも自分はそこまで求めてないからって言って相手に一方的に我慢させるっていうのもそれも違うのかなっていうふうに思って。もし，相手がそのしたくないっていう私を尊重してくれるのであれば，そういうことをしたいって思った相手のことも尊重はしたくて，でもしたくなくてっていう，思考が堂々巡りになっちゃうんですけど。それで結構恋愛に対しても，付き合った先にあるのがそれなら別にいいかなって言ってちょっと一歩引いちゃっている感じはありますね。（中略）*

*経験が積み重なることによって，相手はこれを求めてるかもしれないっていうのが，さすがに察しが私もつくようになってきたので，もう察しがついている状態で，本当に何も知らないふりしてお**付き合い**するのはちょっと不誠実かなっていう葛藤が生まれてます。（J）*

また，頻出 50 語の単語クラウドと頻出上位 25 語をどちらも参照すると，ロマンティック・アセクシュアルに特徴的な語として，「性的」「性行為」「キス」が挙げられる。これらの語は，自分の中で生じない，存在しない感覚や，葛藤を感じる行為を説明する際に用いられていた。代表的なトランスクリプトは以下の通りである。

*恋愛はする，まあ人を好きにはなるけど，なんか恋愛感情と**性的**な感情が結びつかないみたいな認識が近くて，（N）*

__性行為__について学んだ時，（中略）なんか現実感があまりにもなくて，でやっぱり，なんかちょっと気持ち悪いなっていう感覚はあったかなって思います。（L）

その__性行為__をしたことでやっぱ好きだって言われるのが一番きついかなっていうか，なんか自分ではその感情を理解できないから，なんかそれって本当に好きなの？みたいに思っちゃう，感じかなって。（N）

もう__キス__がそもそも現実味がないものだったんで，本当にするの？みたいな，本当にそんなことあるの？みたいな，（J）

__キス__以上の接触を，相手から求められないと，割とそういう気づきというかそういう何だろう，雰囲気にもならなくて，隣にいてちょっとくだらないこととか喋って，でもう満足して，私の中ではもうそこで完結してたので，（中略）あ，この先があるんだなっていう，毎回その時気づかされるというか，意識がようやく向くっていう感じです。（J）

（自認したことで）__性行為__をしなくてもいいんだなっていう安心感はあります。（中略）なんか，__性行為__が無理，無理っていう選択肢があるっていうのがすごく安心材料です。（L）

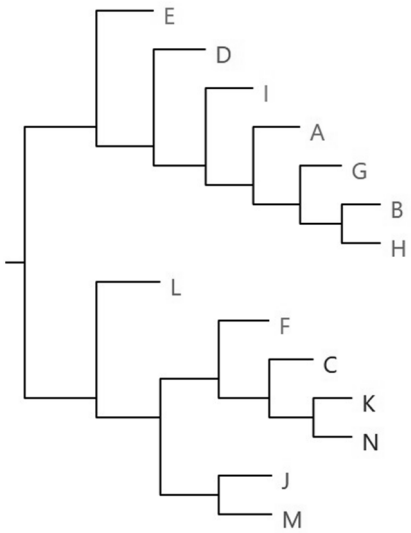
今の社会の（中略）一般的な考え方として，（中

*略）恋愛，**性行為**，同棲，結婚みたいなのが全部1セットというかなんか流れというか，（中略）その流れの途中で，脱落っていうか，乗れないから，なんかそこで相手と齟齬を起こす確率が他の人より高いんじゃないかなって思うって感じですね。（中略）やっぱりなんか恋愛と**性行為**がセットなのはおかしいと思うので，おかしいと思うというのも私個人の気持ちなんですけど，なんか，そういうなんか社会通念みたいなのが，こう，早く解体されればいいのにと思ってるんですけど，でも，思ってはいるんですけど，同時にこれは多分すごい難しいし少なくとも私が生きている間には無理かなとも思ってるので，なんか祈りに近い気持ちですね。（K）*

2. 語の類似性による参加者の分類

トランスクリプトにおける語の類似性を指標とした参加者のクラスター分析の結果，参加者は大きく 2 つのグループに分類された（Figure 4）。上側のグループにはアロマンティック・セクシュアル 2 名とアロマンティック・アセクシュアル 5 名が含まれ，下側のグループにはロマンティック・アセクシュアル 5 名とアロマンティック・アセクシュアル 2 名が含まれた。

Figure 4 参加者のクラスター



Ⅳ　考察

1. 頻出語に表れる葛藤場面

3 カテゴリーに共通していた頻出上位 5 語について，「思う」は自分の特性や感覚を説明する際に「～だと思う／思わない」という表現を用いることが影響していたのだと考えられる。「人」「自分」「私」に関しては，周囲との関わりの中で自分の特性や感覚を自覚するプロセスを説明する際に，自己と他者を比較して話すことが影響しているのだと考えられる。「恋愛」については，恋愛が 3 カテゴリーにおいて共通して葛藤を感じる重要なテーマであることが示唆された。性的な事柄よりも恋愛的な事柄の方が話しやすいということが影響している可能性も考えられる。

各カテゴリーにおける特徴的な頻出語に焦点を当てて参加者の語りを分析した結果，アロマンティックに特有の葛藤場面，アセクシュアルに特有の葛藤場面，そして恋愛的指向と性的指向の組み合わせによる葛藤場面がそれぞれ浮かび上がってきた。

1）アロマンティックに特有の葛藤場面

アロマンティック（アロマンティック・アセクシュアル，アロマンティック・セクシュアル）の参加者は，恋愛や交際に対する嫌悪感，または恋愛的惹かれや恋愛感情が自分の中に生じない，存在しない，わからないという感覚を語るのが特徴的であった。また，周囲の人々の，恋愛することを当然視する考え方や，恋愛を人生における最高の価値であると捉える態度によって，期待とプレッシャーを感じていることが示された。それだけでなく，これらの規範を自分の考えとして内在化してきたことによる苦悩も存在していた。よって，アロマンティックの人々は，社会における恋愛至上主義的な規範によって葛藤を経験してきたことが示唆された。

2）アセクシュアルに特有の葛藤場面

アセクシュアル（アロマンティック・アセクシュアル，ロマンティック・アセクシュアル）の参

加者は，性行為に対する嫌悪感，または性的惹かれが自分の中に生じない，存在しない，わからないという感覚を語るのが特徴的であった。また，性行為を望まないことで周囲の人々から責められる，不思議がられる経験や，性行為をしなければならないと感じることによる焦りや不安が語られた。よって，アセクシュアルの人々は，強制的性愛の規範によって葛藤を経験してきたことが示唆された。強制的性愛とは，正常な人間ならば他者へ性的に惹かれるのが当然だとする社会規範であり（Gupta，2015），性愛を特別視し，身体の健康や親密な関係と紐づける思想である（Przybylo，2016）。

3）恋愛的指向と性的指向の組み合わせによる葛藤場面の違い

ロマンティック・アセクシュアルとアロマンティック・セクシュアルの人々の場合，恋愛的または性的に惹かれることがあるため，その相手との関係性において葛藤を抱く傾向が示された。また，恋愛感情と性行為が結びつかない感覚や，それらがセットとして社会においてパッケージ化されていることに対する疑問を抱いていることが示された。よって，これら 2 つのカテゴリーの人々は，社会におけるロマンティック・ラブ・イデオロギーによる葛藤を経験してきたことが示唆された。ロマンティック・ラブ・イデオロギーとは恋愛と性愛と生殖が結婚を媒介して一体化された概念であり，恋愛・結婚・生殖の三位一体を前提とする考え方である（千田，2011；日本性教育協会，2019）。この規範が当然視されることで，恋愛的指向と性的指向が一致しない人々の存在が無視されてしまう問題が浮かび上がった。

アロマンティック・アセクシュアルの人々の場合は，恋愛的・性的な要素が介在しないパートナーを求める傾向が特徴的であった。近年は LGBTQ＋の人々のパートナーシップを尊重する動きがあるが，それはしばしば恋愛や性愛を軸とした関係性を対象としている。現代の社会において，恋愛や性愛以外の連帯による生活スタイルはほとんど根付いていないため，アロマンティック・アセクシュアルの人々は自らの指向を尊重する姿勢と孤独に対する不安や焦りの間で葛藤する傾向があると考えられる。

最後に，自身の恋愛的指向／性的指向に対する自問自答や試行錯誤の過程は 3 カテゴリーに共通して語られていたが，アロマンティック・アセクシュアルの人々はその過程において，自分が同性愛者なのではないかと考える傾向にあることが特徴として浮かび上がった。

2. 恋愛的指向と性的指向による参加者の語りの違い

クラスター分析による結果から，アロマンティック・セクシュアルとロマンティック・アセクシュアルは各グループとして明確に分けられるが，アロマンティック・アセクシュアルはグループとしての境界線が曖昧である可能性が示唆された。

アロマンティック・セクシュアルとロマンティック・アセクシュアルは恋愛的指向と性的指向の組み合わせとして言わば対極の存在であるため，クラスターとしても混在せずに明確に分けられたことが推測される。アロマンティック・アセクシュアルはアロマンティックの特性もアセクシュアルの特性も有しているため，参加者が語る際の恋愛的要素と性的要素の比重によって 2 つのグループのどちらかに分類されたことが考えられる。

3. 限界

本論文の限界としては，3 カテゴリーのデータ量に差が生じたことが挙げられる。特に，アロマンティック・セクシュアルの人々のデータが不足していた。性自認が男性である人と 40 代以上の人のデータも不足していたため，これらの人々の経験を今後の研究で明らかにしていく必要がある。また，本研究の知見を量的データからも検討し，恋愛的指向と性的指向の組み合わせに関する知見

を深めていくことが今後の課題であると考えられる。

＜注＞

1）本研究はお茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻発達臨床心理学コースに提出した修士論文の一部である。

文献

Asexual Visibility and Education Network（AVEN）. Retrieved August 28, 2023 from https://www.asexuality.org/

Bogaert, A. F. (2004). *Asexuality: prevalence and associated factors in a national probability sample. Journal of Sex Research*, *41* (3), 279-287.

Dawson, M., Scott, S., & McDonnell, L. (2018). *"Asexual' Isn't Who I Am": The Politics of Asexuality. Sociological Research Online*, *23* (2), 374-391.

Gupta, K. (2015). Compulsory Sexuality: Evaluating an Emerging Concept. Signs, *41* (1), 131–154.

Hiramori, D., & Kamano, S. (2020a). Understanding Sexual Orientation Identity, Sexual/Romantic Attraction, and Sexual Behavior beyond Western Societies: The Case of Japan. *SocArXiv*.

Hiramori, D., & Kamano, S. (2020b). Asking about Sexual Orientation and Gender Identity in Social Surveys in Japan: Findings from the Osaka City Residents' Survey and Related Preparatory Studies. *Journal of Population Problems*, *76* (4), 443-466.

釜野 さおり・石田 仁・岩本 健良・小山 泰代・千年 よしみ・平森 大規・藤井 ひろみ・布施 香奈・山内 昌子・吉仲 崇 (2019). 大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート報告書（単純集計結果）.「性的指向と性自認の人口学ー日本における研究基盤の構築」・「働き方と暮らしの多様性と共生」研究チーム（代表 釜野さおり）編 国立社会保障・人口問題研究所
Retrieved August 28, 2023 from https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/%EF%BC%8A20191108%E5%A4%A7%E9%98%AA%E5%B8%82%E6%B0%91%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%EF%BC%88%E4%BF%AE%E6%AD%A3%EF%BC%92%EF%BC%89.pdf

Kinsey, A. C., Pomeroy, W. R., & Martin, C. E. (1948). *Sexual behavior in the human male. American Journal of Public Health*, *93* (6), 894-898.

三宅 大二郎・平森 大規 (2021).日本におけるアロマンティック/アセクシュアル・スペクトラムの人口学的多様性――「Aro/Ace 調査 2020」 の分析結果から―― 人口問題研究, *77*(2), 206-232.

日本性教育協会 (2019).「若者の性」白書 第 8 回 青少年の性行動全国調査報告: 第 8 回 青少年の性行動全国調査報告 (教育単行本). 小学館.

Przybylo, E. (2016). Introducing asexuality, unthinking sex. Introducing the New Sexuality Studies, 197-207. Routledge. https://doi.org/10.4324/9781315697215-32

埼玉県 (2021). 埼玉県 多様性を尊重する共生社会づくりに関する調査 報告書
Retrieved August 28, 2023 from https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/183194/lgbtqchousahoukokusho.pdf

千田 有紀 (2011). 日本型近代家族―どこから来てどこへ行くのか. 勁草書房.

Yule, M. A., Brotto, L. A., & Gorzalka, B. B. (2013). *Mental health and interpersonal functioning in self-identified asexual men and women. Psychology & Sexuality*, *4* (2), 136-151.